



—— 座談会 ——

青全交 in 香川への思い

『第53回 青年経営者全国交流会 in 香川』開催まで半年を切りました。
そこで、各部会の取り組みと進捗状況などを各部会長に聞きました。

【出席】

青全交 in 香川 分科会部会 部会長

竹下 永真氏

(株)スペースボア／取締役COO
(高松第1支部)

青全交 in 香川 全体会部会 部会長

岡光 里海氏

オーエス・ACT(株)／取締役
(高松第5支部)

青全交 in 香川 歓迎部会 部会長

八田 典子氏

丸八商工(株)／取締役
(高松第7支部)

【司会】

広報・情報化委員会

村尾 耕一氏

(同)グラン通信社／代表社員
(高松第1支部)

自社紹介

司会 本題に入る前にひと言
自社紹介をお願いします。

竹下 会社はロケット開発、
宇宙関連事業ですが、エンジ
ンの開発がメインの仕事にな
ります。ただ、仕事の中で最も
重要なものは、子どもたちや
地域の方たちに向けての教育
事業です。

八田 私の会社は祖父が創業
した古紙回収事業をしていま
す。例えば、使い終わった古紙
や段ボールを収集して分別、
圧縮梱包したものを再利用す
る会社に卸したりする古紙卸
がメインの仕事です。小さい
頃からお父さん子で、父の働
く姿を見て、5歳のときには
会社を継ぎたいと思っていま
した。同友会では多くの事を
学ばせてもらい、よい後継者
になるよう頑張っています。

岡光 自社の事業内容ですが、
簡単にいうと建築業になりま
す。外壁の張替えや新築の外壁
工事、それからリフォームやメ

ンテナンスなどを手がけてい
ます。地域に根付いた会社を目
指しているので、町内の行事な
どに積極的に参加するよう心
がけて、地元の人たちとの関係
性を大切に、仕事だけでなく
いろんな形での関わりができた
らと思っています。

担当部会とその活動について

司会 では本題に入ります。
皆さんが担当されている部会
が、どんな部会なのか紹介し
ていただきたいと思います。
竹下さんからお願いします。

竹下 「分科会部会」の担当で
す。この部会は2日間開催の
青全交の1日目の担当になり
ますが、中身は20の会場で香
川を始め各県からの報告者を
含めて、例会づくりをしてい
きます。

形は支部例会に似ています
が、20の会場での分科会づく
りのために、基本的にはそれ
ぞれの支部からのグループ長
を養成し、テーマを決めたり、

会場の設営をしますが、それがこの部会の担当になります。

八田 私は「全体会部会」の担当です。皆さんからよく「それってどんな部会なんだ？」と聞かれますが、1日目の懇親会とその後の二次会、そして名前の通り2日目の全体会を担当しています。全体会とは基調報告やバトンリレーなどを行う2日目の会の総称です。

岡光 私の担当部会は「歓迎部会」です。中身は物産展やオプショナルツアーの案づくりです。名称は「歓迎部会」ですが、活動内容の中に増員増強と広報活動も入っており、県内外からの参加者の皆さんを動員し、香川の魅力を伝えつつ、どのように楽しんでいただくか、青全交を通して香川らしさ、魅力を大いに伝えていける内容の部会にしていけたらという考えで取り組んでいます。

青全交を盛り上げるために、県外プラス県内に向けての増員活動をしなが、とくに県

内に向けてはこの大会のイベントに絡めた増強を立案しながら進めています。

司会 ありがとうございます。では続いて、それぞれの部会の取り組みの進捗状況について聞かせてください。

竹下 途中交代なので部会長としては2カ月近くにしかないものですが、私自身最近になって活動の中身が理解できるようになったというのが正直なところなんです。

立場的にはやらなければならないことが多く、戸惑うこともありました。まず組織づくりから始めました。現在は各役割の任命が終わったところで、これから本格的に分科会づくりがスタートするという段階です。

ですから、今はまだ香川県メンバーのみの活動ですが、5月中旬になれば県外の報告者や座長が入ってくるので

細かな作業に取り掛かる予定です。会場の下見も終わり、殆どが確定したのでこれから詰めるに入ります。

それから、テーブル討論の質を上げるためのグループ長の養成がとても大事なので、そのための取り組みを並行して行っています。

八田 懇親会の担当としては、会場が決まったので、今は具体的なアトラクションの内容や料理等を決めている段階です。香川の良さを伝えたいという気持ちでいっぱいなので、実は香川にはこんな魅力もあるんだよという気付きのあるものになりたいという考えでつくり上

げているところです。

二次会の担当としては、香川には同友会会員さんの魅力溢れるお店がたくさんあるので、香川の夜もしっかり楽しんでもらうための準備を進めています。

それから2日目の全体会の報告者も無事決まりました。開催地スローガンであるテーマ「守破離(しゅはり)」について(株)ウエストフードプランニングの小西代表理事に基調報告をしていただき、特別報告として「共育型インターンシップ」を経験した三木高校の卒業生



竹下 永真氏

と廣林先生に報告をしていた
だきます。

今からプレを行って細かい
部分が決まっていくので是非
当日を楽しみにしておいてい
ただきたいのですが、2日間
の青全交の最後を任せてもら
う部会なので、やはりテーマ
の「守破離」はこういうこと
だったんだ、香川同友会が提
唱する「新しい景色」とは、こ
れだったのか等々を皆さんに
伝えられたらと考えています。

岡光 歓迎部会の進捗状況で
すが、この部会は他の部会と
異なっていて少し特殊なところ
があるので具体的には伝え難い
ところがあります。

一番わかりやすいのが物産
展だと思うのですが、私自身
昨年の宮崎の全国大会の参加
しか経験がないので、他県が
どんな形だったのかわからな
いのですが、新しい試みとし
て高松駅前広場での物産展を
マルシェ形式で行う企画にし
ています。

オブショナルツ

アーは、同友会に

所属している企

業さんの魅力や香

川の魅力を掛け合

わせたようなもの

を、2つ程企画してお

り、これから募集要項を策定

し、その後に案内と出店者（参

加者）募集の作業が始まる予定

です。

ただ、部会といっても全体

に関わる内容ばかりなので、

一つひとつの取り組みに対し

て最後までしっかりとだらけ

ることなく、決めた目標に向

かってきちんとスケジュール

管理をしながら進めていかな

ければと思っています。

岡光里海氏

青全交開催に

向けての思い

司会 ありがとうございます

した。私自身、全国大会に向け

ての取り組みについて知る機

会がなかったものですから、

皆さんのお話から進み具合

がとてもよくわかりました。

では続いて数カ月後に迫っ

た青全交開催を皆さんはどう

受け止めていますか。率直な

気持ちを聞かせてください。

竹下 青年部に限らず全国大

会の運営に関わるのは初めて

の経験なので、とても楽しみ

にしています。それから、同友

会入会からそれほど月日が

経っていないにも関わらず、

部会の運営を担当させていた

だくことになったので、何か
しら運命のようなものを感じ
ています。またそれを、とても
幸運なこととして受け止めて
います。部会長というとても
重いお役を任されたことに責
任を感じつつ、頑張っている
ところです。

ですから、楽しみ半分、そし
て役割を全うして何らかの足
跡を残さなければならぬとい
う思いを抱える毎日です。

八田 まだ先だという思いと、
意外ともうすぐなんだという
思いが交錯する毎日ですが、



正直いつて不安よりもワクワク感が強いです。部長を引き受けたときは、本当に私でいいのかと悩みましたし、大きな不安もありました。全国大会をつくることに對する不安は、今まで経験したことの無いものだったのですが、たくさんの方からいただくいろんな意見や協力で何とか不安感から開放されて、今はこの経験はきっと大きな学びを私にもたらしてくれるものであることに気づき、香川の魅力を全国の方に知ってもらえるような香川らしい全国大会をみんなで作るぞ！と前向きに思えるようになりました。

前述しましたが、今回のテーマは「守破離」です。青全交をつくっていく中で、たくさんの方から「昔の同友会はこんなだったんだよ」とか、「今までこんな思いで同友会活動をしてきたんだよ」という話を聞かせてもらったり、先日理事の勉強会に参加させていただき、



今まで知らなかった同友会の歴史などを知ることができたので、改めて私たちが守っていくものと、発展させるべきものを深く考えることができました。開催日が近づいていくにつれ、実行委員会のメンバーから伝わってくる熱気のようなものをひしひしと感じています。

岡光 私も二人と全く一緒にいます。去年の6月ぐらいに実行委員会がスタートして、今まで一緒にやってきま

したが、もう1年間打ち合わせを続けてきたことになります。振り返ると本当にあつという間でした。ですか

ら、これからの数カ月はそれはもう一瞬なのではないかと思ったりします。

ただ、八田さん同様、私自身もこういう大きな役を受けたことがなかったので、不安はありましたし、今もそういう気持は心の片隅にあります。ですが、たくさん先輩会員や仲間たちに支えられながら歩みを進めてこれたことは、私にとつてはとてもいい経験ですし、その経験から生まれる繋がりは、青全交だけでなく、その後の関係性にも大きく影響することなので、非常に大切な機会をいただいたというのが、今の率直な気持ちです。

青全交に期待するもの
司会 ありがとうございます。では続いての質問ですが、皆さんは青全交に何を期待しますか？ 岡光さんからお願います。

岡光 私が一番最初に思ったことは、香川県全体、地域丸々の魅力とかを知ってもらいながら、それぞれの地域が盛り上がったらいなと強く思っています。青全交は県外からたくさんの方が訪れる会です



八田典子氏



が、折角の香川での開催なので、香川同友会内での盛り上がりについて、もっともっと他支部の人たちと連携を取りながら、支部を超えての仲間づくりが活発になればいいなと思っています。

それから、青全交は今回が第53回なので、ずっと続いてきている流れ、守ってきているものが必ずあるので、私たちも含めてこの部分は受け継ぎながら、香川県ならではの青全交の魅力をつくり上げていきたいと考えていますし、その取り組みについて皆で考えているところです。

八田 期待することはいっぱいあるのですが、全体会部会としてはこの2日間何を持

って帰ってもらうかを真剣に考えて、やはり地域の未来をつくるのは自分たちなんだという「主体者としての意識」を持つてもらうこと、そしてそれを想いだけでなく行動に移したくなるような会にしたいと皆で話し合っています。

主体者としての意識を持つ人が増え、共に仲間として未来をつくっていったら、本来に地域を変えられるのではないかとという期待があります。

他にも例えば、少し同友会から足が遠のいている方や支部例会以外に参加していない方の参加のきっかけになればいいなとも期待していますし、香川同友会が一丸となってこの全国大会をやり切ることできっと自分たち青年部の自信にもつながると受け取っています。もちろん、部会長の経験を貴重な機会と捉え、自分自身も成長したいと願っ

ています。

竹下 こちらとしては、参加するということよりも今はつくる側に回っていることで、私が期待していることよりも、皆さんが期待していることにまず応えることがとても大事と受け止めています。

それから青年部だけでなく、これは同友会全体に伝えることかと思うのですが、同友会自体にそもそも何で参加しているのか、からが始りだと思いうのですが、やはり学びに来ているのだと思います。私自身も例会に参加したり、今回の役を受けて、いろんな組織を動かす側の人間としての全ての経験が、私は自分の学びになっていると思っています。

今回の青全交では、県外からの参加者が大勢いらっしゃると思うのですが、学びを得る側と与える側に分けるのではなく、学びを与え、また学びに行くという両方の立場としての参加になるので、その点については大いに期待しています。

司会 各部会の取り組みと進捗状況、開催に向けてのそれぞれの思いを、丁寧に語っていただきありがとうございます。開催までのこれからの数カ月、多忙な日が続くと思われませんが、益々のご活躍を期待します。



村尾耕一氏